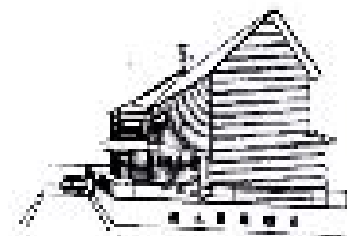


<今朝の聖書から> 新共同訳聖書で、この箇所は“汚れた霊が戻ってくる”および“イエスの母、兄弟(46節以降)”というタイトルがつけられている箇所になります。まず汚れた霊が共に住む家、ということについてみましょう。悪しき霊が伴う、とても辛そうな響きの言葉です。信仰を持たない人々も恐れることです。“今は科学の時代”と何時も叫んでいる人々も、実は恐れていることなのです。占いが最近のブームになっているそうですし、何かジンクスを持っている人は沢山います。“失敗しないためのまじない”も実は“人々を誘惑する悪しき霊と同居したくないために何かまじないが欲しい”ということを示しているのです。また聖書は、何か意味不明のまじないを警戒しています。ガラテヤ書 5:20 に“偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派”と悪霊に屈服した姿を示しています。水のある湿っぽいところを好むと考えられていた悪霊は、私達の心の弱いところを探しているのではないのでしょうか。これらの箇所を見る時、審判についても語られていることが分かります。12:45にある“よこしまな時代”という言葉がそのことを示しています。二ネベの人々は、受け入れることを知っていましたし、シェバの女王はソロモンの知恵を求めています(列王記上 10 章)。審判によって永遠に、悪しき霊と共に暮らす人々の心を指摘しています。これが永遠の裁きである滅びの姿なのです。このような論争の姿を通して、現代の教会は、二種類の人間(聖書にでてくる言葉を使えば弟子達とパイサイ派の人)というよりは、一人一人の心に、そして実際の生活に二種類の状態があることを、既に知っているということを経験すべきでしょう。新生の恵によって聖くなった心に、イエス様という聖い霊を迎え続けたいものです。次に母とは誰か、兄とは誰かという論争に進んでいきます。ひとことで答えるなら、心のなかで“主よ”と思える人のことでしょう。これが兄や母という関係だということです。感謝しなければならぬことに“主よ”と思うことを忘れた時には、すぐに自らの力の小ささに気づき、何も解決できないどころか、絶えぬ努力にかかわらず、不幸に満ちた家族関係を日常的によく知っているのが、今も変わらぬ社会でしょう。人と人との関係を、イエス様は、一番適切な関係として兄や母という家族の関係において説明しておられるのです。そして教会(弟子達)を説明しておられるのです。今日もう一度、正しい関係は主の力を頂いて築けることを思い出しましょう。

週報

2009年 8月 23日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp